

JAMトピックス

J
第
定

A
1
期

8
大

M
回
会

2017 年度活動方針など決める

JAM第18回定期大会が2016年8月25-26日の両日、静岡県熱海市で開かれ、2017年度活動方針や予算、2016年度春季生活闘争の総括、第24回参議院議員選挙の中間まとめなど8本の議案を審議、12人の代議員からの意見・要望を受け、それぞれ満場一致で決定された。



<勇退する津田前議員と固い握手をする宮本会長>

冒頭のあいさつに立った宮本礼一JAM会長は春季生活闘争と参議院議員選挙を中心に挨拶した。

2016 年春季生活闘争

ベア3年目の取り組みとなった2016年春季生活闘争は、特に中小企業労働者や非正規労働者の賃上げに焦点が当てられ、多くの単組が3年連続で賃金引き上げを獲得。経済の好循環に一定の役割を果たすことができた。JAMは結成以来、公正取引ルールの確立を訴え、ベアを要求した3年間は春季生活闘争での政策要求として取り組みを強化した。公正取引ルール確立にむけて継続して取り組みを進めるが、「自らが生み出している付加価値が、現在どの程度か」、「月例賃金を社会的水準に引き上げ、一時金を確保するためには、どれだけ生産性を向上させて、付加価値を改善しなければならないのか」、という議論を労使間で促進していくことが求められる。

第24回参議院選挙

第24回参議院議員選挙ではJAM結成以来、維持続けてきた国会議員の議席を失うことになった。これは、JAMの政策活動、政治学習のあり方、さらには全国105の地協を中心とした組織運営などの全ての面にわたり総点検し、謙虚に

反省しなければならない。そのうえで「ものづくり産業で働く者」「生活者」というスタンスに立ち、産業政策や雇用・労働問題に対する明確なビジョンのもと、組合員との対話を重ねるなどして、改めて産業別組織としての信頼関係の構築と、JAM運動への積極的参加にむけた地道な活動を展開しなければならないと述べた。

報告、方針に対して代議員からはブラック企業対策へのさらなる支援要請や男女平等参画アクションプランの推進、震災への対応と対策、組織拡大に関する取り組み。政策実現活動に対する総括および今後の取り組み、特定最低賃金への取り組み強化など意見要望を受けた。



<8本の議案を審議して満場一致で可決>

また、今期で勇退した津田やたろう前参議院議員からは「選挙は抱える組織が必死で自分たちの力で当選する票を必ず出してやる、他力本願ではなく、自分たちでどうにかするその思いが重要である。JAMはまさに一人ひとりの組合員に一つひとつの組合の執行部の皆さんが、丁寧にこつこつと説明し、支持を積み上げていく取り組みが常に求められている。これは大変なことではあるが、この取り組みこそJAMの原点ではないかと思う。今回の選挙ではJAMは目いっぱい頑張ったと思う。次回、チャレンジしなければ勝ちを取ることはできない。本大会がそうした意思固めのスタートになることを祈念する。私は残された人生を地域や社会福祉に何らかの形で貢献したい」と12年間、活躍した組織内参議院議員としての選挙に関する想いを語った。